

## 目標：都市域のコミュニティ空間として、身近な自然を楽しめ、川と街の一体感が体现できるような河川整備を行う

- 生物に配慮した川らしい水面利用の適正化を図ると共に淀川の魅力を生かした舟運利用を検討する。
- みんなが川で憩い、安らげる場となるような整備を実施する。
- 川とまちを繋ぐネットワークを構築する。

### 現状の課題

#### <自然を楽しむ場や憩いの場としての利用が望まれている>

- 河川敷を公園として利用しているところでは、生物が川と陸地を行き来することができなくなっている。
- 人が水辺に近づくことが難しい箇所もあり、水辺の利用が難しくなっている。
- 川と街も分断されていて、川に近づきにくいところもある。

#### ●川の中の分断



護岸を設けているために、生物も人も水辺に近づきにくくなっている。



本来、豊かな自然環境がある河川敷をグラウンドや駐車場に利用することで、水辺と陸地を行き来して生活する生物の移動を妨げている。

#### ●迷惑行為

一般利用者が自由に利用できる空間において、ゴルフ、バイク及びラジコン等の騒音や危険行為等が増加している。また、野犬に関する苦情も多く寄せられている。

今後、関係機関と連携し是正に努め、河川利用者が楽しめる空間整備を行う。



是正

### 整備内容

#### ■基本的な方向

「川でなければできない利用」を基本とする



歩行者等が河川に沿って容易に移動でき、安全に水辺に近づける小径(散策路)



河口から伏見港までが航行可能となるような整備

